

申請者:荒井 耕

論文題目 病院原価管理論

審査員 村田和彦
廣本敏郎
挽 文子

本論文は、医療財政の悪化を背景とした診療報酬抑制環境下にあつて厳しい状況にある病院経営において不可欠の課題となる原価管理問題を取り上げ、米国における病院原価管理の歴史的展開を記述するとともに、日本の病院原価管理の現状と課題を論じたものである。

本論文で特に評価できる点は、次の3点である。

第1に、実質的に全く未開拓であつた研究領域において、データベースを活用して渉獵した1,000編にも達する文献と、20近い病院の80人にも及ぶ病院管理関係者へのインタビューおよび7,400を超える全国民間病院に郵送したアンケート票(有効返送数1,497通、回収率20.15%)から得られたデータを用いて、これを見事に纏め上げた点である。これほど膨大な資料を纏めきつた力量は、極めて高く評価できる。

第2に、米国最初の公的保険であるメディケアが創設された1965年前後から83年メディケア償還制度改革を経て現在に至る米国における病院原価管理の歴史的展開に関する研究成果、および、聖路加国際病院における原価計算・原価管理の事例研究を含むわが国病院原価管理の現状と課題に関する研究成果は、この領域における管理会計研究の先驅として高く評価できる。

第3に、品質管理を含む広義の原価管理手法としての診療プロトコルマネジメントの意義を明らかにした点は、今後の病院原価管理論の確立に向けて非常に興味深く、評価できる。

しかし、本論文にも問題点がないわけではない。冗長的な記述が少なくない等といった他に、83年メディケア償還制度改革で導入された疾病別定額払い制への対応を病院原価管理の基本的課題として無条件に受け入れている点が問題となり得る。本論文の冒頭で指摘されているように、病院原価管理は個々の病院が地域住民に効率的・効果的な医療サービスを安定的・継続的に提供し続けるために必要なものであるとすれば、そのために原価管理制度はいかにあるべきかということも考察されるべきであつたと思われる。今後の研究に期待したい点である。

上述のような問題点はあるものの、それらは本論文の価値を損なうものではない。よつて、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第4条第1項の規定により一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。